【声明】議員定数削減反対！

2026 年 11 月 25 日

議員定数削減反対！緊急アクションおおさか

議員定数削減に断固反対！

10 月 29 日、自民党、日本維新の会、国民民主党の 3 党は、衆議院比例区の議席を 31 削減することに合意をし、今国会成立を目指すと発表しました。 3 党それぞれの思惑が入り乱れるなか、主権者など眼中にないまま、数合わせにより合意に至ったこの法案に、私たちは断固反対します。

定数削減はどこから？

『身を切る改革』を掲げ、大阪維新の会が大阪府議会の定数削減を強引に押し進めてきた結果、2011 年に 109 人いた議員は現在 79 人となり、2027 年の統一地方選挙ではさらに 73 人にまでなります。これにより一人区がさらに増え、維新以外の立候補者の追随を許さない状況が加速されるものと危惧します。前回の府議会選挙で大阪維新の会は 26.7%の絶対得票率を得ました。その一方、維新が議会全体で占める議席率は 69.6%に及びます。有権者の 3 割しか信任を預けていない党が、議席の 7 割を占めているのです。多様な意見が反映されにくいことが、この数字からうかがえます。そのような府政がもたらしてきた結果はここで語るまでもありませんが、多くの府民が身を切られてきたことだけは確認しておきます。

2025 年 10 月、高市自民党に乞われ日本維新の会は連立政権入りに合意しました。その時に維新が提示した政策要求の一つに衆議院議員定数 1 割削減が含まれており、副首都構想とともに「絶対条件」として示されました。民主主義の根幹である選挙制度の課題が突然、連立合意の交渉テーブルにのせられたのです。それが、この定数削減の発端です。

問題は、国会で圧倒的多数を占める連立政権が、この『身を切る改革』を国政レベルで行おうとしていることです。私たちは、『身を切る改革』を断固拒否します。

政府は自ら掲げた法律に背を向けるのか？

選挙により選ばれた議員が集まる国会は、多様な民意を集約し、合意形成を図る場です。衆議院比例代表だけを削減する 3 党案は、大政党に有利に働き、小政党の議席獲得を困難にし、新しい政党の進出を阻むものになることが懸念されます。また、過去のデータが示すように、比例代表の削減は女性の立候補に不利に働くことは明らかです。

2026 年ジェンダーギャップ指数で日本は世界 145 カ国中 117 位、国会議員の男女比では 118 位に位置しています。今年 2 月の総選挙における女性立候補者の割合は 24.4%（自民党は 16.6%、政

府目標は 35%）で、当選者は 14.6%でした。2018 年の「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の趣旨に反するこの定数削減案は、女性の政治参画を促すどころか、妨げるものです。私たちは、この定数削減案に断固反対します。

少数者の声の切り捨てを許さない！

私たちは大阪で議員定数削減反対を掲げ、集会やスタンディングを行っています。集まった人たちは、「削減ではなく質の向上を」「裏金議員を許すな」「少数意見の切り捨てだ」などの声をあげています。さらに、３人の子どもをもつシングルマザーや難病をもつ人からは、「私たちの声はますます政治に届かなくなる」という懸念が示されています。

私たちの社会は多様な人びとにより構成されています。とりわけ大阪は、朝鮮半島にルーツをもつ人たちが集住する町です。加えて、世界の国、地域から就労や学業のために大阪に移り住む滞在者や定住者が多くいます。これらの人びとの大半は外国籍者であり、選挙権をもちません。しかし、住民として納税義務を果たし、社会保険に加入して社会保障制度を支えています。

国会議員は、社会を構成する多様な人びとの声や生活を政治に反映させる使命を担っています。しかし、３党の議員定数削減案はその使命を無視するものであり、政治から少数者の声をさらに遠ざけ、投票権をもたない住民の意見を国会に届ける道をさらに険しいものにします。

拙速に、民意に耳を傾けず、数の力で押し切ろうとする３党の姿勢を厳しく批判する私たちは、議員定数削減に断固反対します。